

会議録

| | |
|---------|--|
| 会議の名称 | 西東京市公民館運営審議会平成23年度第4回定例会会議記録 |
| 開催日時 | 平成23年7月27日（水曜日） 18時30分から20時30分まで |
| 開催場所 | 田無公民館 第二学習室 |
| 出席者 | 委員：西嶋剛昭、中曾根聡、渡辺文子、千葉佳子、畠山昭裕、須磨田純子、馬場真由美、西原みどり、大島眞之、福島憲子、加藤真理、新藤浩伸 職員：相原館長、大平主幹、川口館長補佐、寺嶋分館長、小笠原分館長、長谷部分館長、平井分館長 |
| 欠席者 | 委員：幸内悦夫、萩原建次郎 |
| 議題 | 1 第3回定例会の記録について 2 報告事項 1.行政報告 2.公民館だより編集室報告 3.都公連委員部会運営委員会報告 3 事業計画・報告書について 4 協議事項 (1) 防災対策について (2) 「公民館運営審議会に寄せる思い」パワーポイントで解説。…新藤浩伸委員 5 事務連絡及び情報交換 |
| 会議資料の名称 | (1) 第3回定例会会議録 (2) 公民館だより編集会議報告 (3) 第6期 公運審コラムの順番表 (4) 公民館運営審議会に寄せる思い (5) 事業計画書 1.市制誕生10周年記念事業「地域を考える講座」 地域課題を解決するために地域人ができること（芝久保） 2.女性講座「キモチつながるここちよく」（保育付）（ひばりが丘） 3.中国古典講座パート2「易・陰陽五行と暮らしのリズム…易経を読んで」（芝久保） 4.身近な材料から実験しよう 手すきをしてきれいな和紙を作ってみよう（保谷駅前） 5.「子育ては自分育て」講座（芝久保） 6.市民講座 国際理解のための講座2 韓国文化と韓国語基礎学習（田無） 7.市民講座 国際理解のための講座1 国際問題への関心と、その解決へ向けて考える力を養う（田無） 8.ドキュメンタリー映画を通して「今」を考える（保谷駅前） 9.健康講座「暮らしの中の自然健康法」（谷戸） 10.働く女性向け ストレスを軽くする働き方講座 言いすぎず、ガマンしすぎず会話のひと工夫（保谷駅前） 11.地域の防災2011（柳沢） 12.地域力パワーアップ講座「あなたも子どもの一番のサポーターになろう」（芝久保） (6) 事業報告書 1.アロマセラピー講座（芝久保） |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録 |
| 傍聴者 | <input type="checkbox"/> 有り（人） 無し |
| 会議内容 | |

(1) 第3回定例会の記録について

配付した記録のとおりとする。

(2) 報告事項

1.行政報告 1件

館長：

公民館の夏期節電計画の6月分実績を報告する。各公民館前年度より17パーセントから18パーセントを目標にしているが、柳沢55パーセント田無47パーセント谷戸69パーセント芝久保59パーセント目標値を大幅に達成しており、今後とも節電に努めていきたい。また西東京市対象施設全体では35パーセントの減少となっている。

委員：

節電による障害は報告されているか

○館長：

現状では障害の報告はされていない。熱中症の対応も適切に取っていきたい。

2.公民館だより編集室報告

詳しくは添付の報告書のとおり。

公運審コラムの順番表を訂正した。

質問 意見無し

3.都公連委員部会運営委員会報告

委員：

6月24日都公連委員部会運営委員会を実施参加する。7月24日の第一回研修会は連絡の不備で参加できなかった。次回11月27日の研修は新しい公運審委員を対象に基礎的な内容とする。

公民館制度を熟知している西東京市の近藤氏を講師に招き「都の公民館の現状と都公連の役割」を話し合う。次回は8月26日に実施予定。

柳沢公民館：

都公連からの情報は遺漏のないよう速やかに委員に連絡する。

委員：

7月の研修内容を報告する。「現代社会における公民館の位置づけ」の講演会を行い、又アンケート結果より新しい公運審の委員を対象に研修の必要性が認められた。社会教育における公民館の位置付けは、学校教育を受けることが出来なかった人、弱者の為にあることを感じた。

相互理解とコミュニケーションが必要である

(3) 事業計画・事業報告書について（『・』は委員質疑・意見、『→』は職員回答）

事業計画

・市制誕生10周年記念事業「地域を考える講座」 地域課題を解決するために地域ができること
・西東京では様々なところで地域課題を取り上げた類似な講座を実施しているがその後の展開が無い。継続的な取り組みを期待する。

・準備会の形式はどのようなものか

→当初「公民館だより」で6月5日の一回を予定していたが、参加者の要望で6月19日も実施地域課題に継続的な取り組む端緒となった。

・女性講座「キモチつながるこちよく」（保育付き）

・学習内容で講師が出席しない回は講座担当者がコーディネイターとして関係作りのキーポイントになるので頑張ってください。

・「子育ては自分育て」講座を含め保育付の講座は15人が限度か、昨年も同様の講座があったが、講座実施後は自主グループとしてサークル活動はしているのか。

→保育室には定員が有り預かる限度は15名である。講座後は全館すべて記録を作り情報を公開、自主グループとして継続活動を行なっている。

身近な材料から実験をしよう 手すきをしてきれいな和紙で作ってみよう

・和紙作りで終わるのか、葉書とか作品をつくるのか

牛乳パックから和紙を作成、それを利用して絵手紙等の展開も考えている。

・お互いに鑑賞することは小学生には難しく保護者の参加も必要か、対象は中学生が良いのでは小学生高学年を対象に考えている。

・小学生低学年の場合は纏まりがつかなくなる。紙の質の違いや大切にすることを高めることは可能か。

牛乳パックから作った和紙と他の紙との違いを体感する。

・「子育ては自分育て」講座

・学習内容の表現が直接的で自己否定し自信をなくす懸念もある。

→講師と担当者が話を詰める中での直接的な表現になったと思われるが、再度担当者に報告検討したい。

・ドキュメンタリー映画を通して「今」を考える

・柳沢公民館の映画会と同様にアンケートを取るのか、鑑賞後共に「今」を考える材料を提供するのか

アンケートの回収も検討しており、考える材料は提供したい。

・難聴者の為に日本語の字幕が挿入された日本映画をお願いしたい。

・働く女性向け ストレスを軽くする働き方講座 言いすぎず、ガマンしすぎず会話のひと工夫

・現代女性をターゲットにしているが、学びっぱなしではなく“まとめ”や“結び”今後の“繋がり”も必要と思われる。

→アサーティブコミュニケーションを含め人間関係の理解、能力を高める講義に重点を置いている。

担当者と相談自主グループとして発展することも考慮したい。

・地域の防災 2011

・宿泊をするのか、タイトルの2011は例年やっている様に受け取られる。今年の特徴は出せるか

→宿泊は希望者がいないので本年は実施しない。今年の特長は東日本大震災を踏まえ、現地へ行かれた方のボランティア経験談、非常用備蓄米（カレー）の試食を行なう。事業名は再度検討したい。

・公民館講座全体

・公民館の役割として防災減災の機能が注目されている中、タイムリーな企画が散見された。現地がどうなっているか確かな情報を得て、今我々が具体的に出来ることは何か、正しい放射能の理解を深めることこの3点が重要である。6館の総力に期待したい。

事業報告

・アロマセラピー講座

・講座の成果はあがっているので、報告書も自信を持った表現で記入する必要がある。

・初めて来館した参加者も多かったとのこと。いつもと違う周知方法、講座の工夫をしたのか

→芝久保は交通の便が悪く、夜間地理的不案内の為土曜の午後に設定、人気のあるアロマセラピーのテーマも良かった。

・2年前も同じ内容の講座があったが引付ける内容と時間帯を工夫すれば参加者は増える。

(4) 協議事項

1. 公民館の防災対策について

委員：

前回協議した公民館の防災機能について公運審からの要望を文書化して提出したい。

柳沢公民館：

今年度実施した訓練状況を報告。柳沢公民館では6月利用者、図書館合同で実施約100名の参加。非常用備蓄米の試食を行なう。

ひばりが丘公民館：

7月に震度7の地震を想定して実施。40名ほどの参加

委員：

今後とも継続した訓練を希望する。

2. 「公民館運営審議会に寄せる思い」 パワーポイントで解説。…新藤浩信委員より

詳しくは添付の資料のとおり。以下解説後の意見、質疑

・公運審の形骸化のリスクを回避する手段、課題と可能性は他の委員会、審議会、学校運営の住民参加にも必要と思われる。

・児童館等多くの施設が会議、審議会を立ち上げ地域住民を巻き込んで同様なコミュニティ作りを行なっている。同じ考えの人が公民館を超えて地域全体をマネジメントしていく視点が重要と考える。

・西東京市は公運審委員が研究会、研修会に積極的に継続参加、公民館の必要性を認識して来た。公民館の活動以外で得た実績蓄積を公民館の活動に繋げている。又公民館の実践を他に活用している。コミュニケーションのみでなく自分が開花し学びを深めること。自分を高め活用することに意義もある。

・他の自治体の芸術文化の会議活動に参加諮問の答申に関わってきたが、理念先行でシンタンクに依存する嫌いがあった。西東京市では参加、共有、交流の元、主体的な議論が行なわれており手間はかかるが、お金に代えられない目に見えない資源であると感じられた。

・多磨地区の公民館活動に危機感を持つ。具体的な意見が出ない公民館活動は縮小、形骸化する。

・公運審の2期4年の任期は短いかも知れない。課題を討論する場として公運審が毎月開催されていることは社会教育を考える機会になった。

・3月11日帰宅困難者の対応をした公民館の防災機能は十分に発揮された。任期は2期4年であるが公運審委員を外れても公民館に関わりを持っていくことも大事である。

・公民館に留まることなく広い視野、良い繋がりを持って、行政担当者と積極的に意見交換をする必要がある。

(5) 事務連絡及び情報交換

特になし。

(6) 次回の日程について

日程は以下のとおり

8月24日（水曜日） 18時30分 於：田無公民館 第二学習室